

自公政権で改革さらに



菅官房長官、石井国交相が出席し「政経懇談会」

菅義偉官房長官は6月2日、神戸市で開かれた公明党政経懇談会に、石井啓一国土交通相（公明党）、高橋みつお党国際局次長と出席しました。

高橋さんは **安倍政権に不可欠!**

内閣官房長官 菅義偉氏

これから目指すべき地方創生や全世代型社会保障を力強く推進できるのも、政権の安定があってこそ。高橋さんは自公連立の象徴です。安倍晋三総理の通訳を務めたことを総理も覚えておられ、「気配りのできる好青年。自信をもって推薦できます」とおっしゃっていました。日本を前に進めるため、語学に優れ、識見も備えた高橋さんを応援していただきたい。

世界に誇れる日本、兵庫へ!

高橋みつお党国際局次長が決意

外交官として17年間、30カ国を駆け巡ってまいりました。その中で、日本の総理として初となる、安倍総理のモザンビーク訪問にも携わり、両国首脳による共同声明の発効のお手伝いもさせていただきました。外交官としての、自身の経験と行動力を生かし、愛するふるさと兵庫、そして日本の発展のために、全力で走り抜いてまいります。

兵庫生まれの
兵庫育ち

「高橋みつお」は、こんな人

Q 阪神・淡路大震災を経験
兵庫生まれ、兵庫育ち。阪神・淡路大震災を経験。被災自治体の職員として病を押して支援に奔走した父の姿を原点に、外務省では世界各国の災害対策・人道支援をサポート。「命を守る政治」に人一倍の情熱を燃やす。

Q 外交官として30カ国を奔走

元外交官。世界30カ国を奔走。英語、ポルトガル語を自由に使いこなす外務省屈指の通訳官として、安倍晋三首相ら首脳外交の一翼を担う。アンゴラでは日本大使館の開設・地雷除去計画の実施に携わり、アフガニスタンでは教育・医療など人道復興支援に尽力。

Q 42歳、子育て世代

2児の父。子育て世代の42歳。「誰も置き去りにしない社会」の実現を訴える。外務省時代、企業の海外進出や投資促進を強力に後押しした経験も。中小企業の海外展開や販路拡大、人材確保などをサポートし、日本、兵庫の経済成長を促す「即戦力」として期待が集まる。



元外交官。在ブラジル日本大使館一等書記官など歴任。首脳外交の通訳も。党国際局次長、同青年局次長。大阪外国語大学在学中に外務省試験に合格し中退。1977年 兵庫県宝塚市生まれ。

「高橋みつお公式サイト」

takahashi-mitsuo.com

高橋みつお

検索



LINE@の登録をお願いします!

LINEのQRコードリーダーからQRコードを読み取ってください



公明党国際局次長

みつお

高橋

世界に誇れる日本、兵庫へ!



Kansai
KOMEI
Journal

関西公明ジャーナル

公明党

2019.夏号

発行所: 公明党兵庫県本部
〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-6
TEL 078-252-1911 / FAX 078-252-1913

3つの課題に挑む!

外交官として17年間、世界情勢を見てきた高橋。培った知見や経験を生かして、兵庫から、世界に誇れる日本、世界で勝てる日本、世界をリードする日本をつくるため、3つの課題に挑みます。

1

世界に誇れる
日本へ

自ら“身を切る改革”を進めます

私は、世界各国を見る中で、内戦や紛争の背後には、必ず政治家や官僚の腐敗があることを痛感。「国民の幸せのためには、政治家が常に範を示すことが不可欠」と確信しています。消費税率10%への引き上げに向け今こそ、国会議員自らが痛みを伴う「身を切る改革」を断行すべきです。具体的には、「議員歳費2割削減」の実現へ先頭に立って闘います。

2

世界で勝てる
日本へ

外需拡大・訪日外国人旅行(インバウンド)を促進

私は、外交官時代、福島県産食品の輸入を制限していたブラジルの規制解除などに取り組んできました。こうした経験を生かし、日本企業の海外展開促進や農産物の輸出拡大、神戸港の国際競争力強化などを通じた経済活性化に尽力します。インバウンド(訪日外国人客)の大幅アップをめざし、兵庫県の魅力発信やWi-Fi環境の整備などを促進。神戸港のクルーズ船増便や神戸空港への国際線就航を実現します。

3

世界をリード
する日本へ

「すべての女性が輝く社会」を構築します

私は、途上国を支援する政府開発援助(ODA)の政策立案を担当。2015年には日米間で協力し、世界各地の女子教育を支援する合意を実現しました。「女性が輝く社会」の構築は、世界の潮流です。企業における女性登用の「見える化」や男性の産休・育休取得の推進、仕事と子育てや介護の両立を視野に入れた「働き方改革」、保育士や介護従事者の待遇改善に全力を尽くします。

小さな声を、聴く力。

誰もが輝く社会の実現が政治の責任です。私たち公明党は、一人一人の「小さな声」を政策に掲げ、生活者の暮らしを守り抜きます。ここでは、公明党が掲げる「重点政策5つの柱」を紹介します。

1 「子育て安心」社会に

10月からの幼児教育無償化や2020年4月からの私立高校授業料の実質無償化に加えて、大学など高等教育の無償化を進めます。給付型奨学金の充実や所得連動返還型奨学金の既卒者への適用など柔軟な奨学金の返済を推進します。

2 着実な賃上げの実現

最低賃金を全国加重平均ベースで2020年代前半には1000円超に、20年代半ばに半分以上の都道府県で1000円超をめざします。同一労働同一賃金を実現します。

3 希望ある“幸齢社会”に

認知症施策の推進に向けた基本法の早期制定と、かかりつけ医を認知症診療の中核に据える医療体制の構築、初期集中支援チームの体制強化、認知症サポーターの活躍を推進します。

4 一人の生命を守り抜く

地震や台風、豪雨、土砂災害から国民の生命と暮らしを守る「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を、国と地方のネットワークで効果的に実施します。南海トラフ巨大地震・首都直下地震対策を強化します。

5 誰もが輝く社会の実現

ひきこもりや社会的孤立など、既存の制度で対応しきれない困り事をワンストップで支援する体制を強化します。子どもの学習・生活支援や住宅セーフティネットの充実を推進します。



「小さな声」聴き政策を前へ



公明党には「小さな声を聴く力」「政策を前へ進める力」がみなぎっています。ここでは、兵庫県で公明党が推進した最新の実績を紹介します。

防災・減災

携帯メールを使い、登録者に災害・防災・避難情報を発信してきた「ひょうご防災ネット」が、スマートフォン向けアプリの運用をスタート。GPS機能を活用した避難場所の検索や、音声や絵文字、多言語による分かりやすい防災・避難情報を受け取れると、話題を呼んでいます。一方、県内各地で津波防災インフラ整備、土砂災害対策が着実に実施されています。

障がい者支援

重症の身体障がい者に電動車いすや座位保持装置などを支給する際に必要な医学的判定について、これまで神戸市西区の1カ所のみで行ってきたものが、西宮市の兵庫医科大学病院でも可能になり、「障がい者の経済的負担が軽減される」と喜ばれています。また、県東部への障がい児者リハビリ拠点の設置やスポーツ施設も整備。ヘルプマークの普及啓発も一層進みました。

がん対策の充実

全国初の小児がん治療に重点を置いた神戸陽子線センターが、ポートアイランドに開院。外科・化学療法と併用して体への負担が少ない陽子線治療が可能になりました。一方、抗がん剤による、がん患者の脱毛など外見上の変化をカバーし、ストレスを和らげる県立病院でのアピアランス支援も好評。早期発見・治療・予防を促す、がん対策推進条例も制定されました。

子育て支援

子育ての経済的負担を軽減する観点から、国による幼児教育無償化の10月実施に合わせ、第2子以降の補助基準額を月額1万5000円に引き上げるなど、県と市町で保育料の上乗せ補助を行います。また国の私立高校授業料軽減補助に県で単独加算し、年収350～590万未満に3万3000円増額など、低所得世帯の負担を軽減します。

神戸空港の増便

5月に開かれた関西3空港懇談会で、神戸空港の発着便数の上限について、現状の「1日60便」から「1日80便」へ増やすとともに、発着終了時間も「午後10時まで」から「午後11時まで」と、1時間延長することが合意されました。年内開始が期待されており、今後は国際線就航も検討される見通しです。